

15番ホール左サイドから18番ホールのグリーンとクラブハウスを臨む。ハウスの右手に見えるのがプロショップ。その右手のエリアに練習場がある。



ゴルファーの理想郷、ここに誕生！ 東京クラシッククラブの 全容を詳細リポート

希少な新規開場コースとして注目を集める東京クラシッククラブ。
『真のクラブライフ』を実現するための施設や設備、
そして帝王ジャック・ニクラス設計のコースを現地で取材した。

写真◎藤井孝太郎 文◎福田智生(編集部)
東京クラシッククラブ 043-309-6661 <http://tokyo-classic.jp/>

クラブハウスに入れるのは メンバーと同伴ゲストだけ

今年5月にオープンした東京クラシッククラブだが、プレーには会員の同伴・紹介が必要なプライベートクラブということもあり、その全容はまだベールに包まれたまま。今回、特別に現地取材を許可してもらったので、コースや施設、設備についてリポートする。

クラブライフを楽しむのに必要最小限のスペースを確保している印象だ。ちなみにこのクラブハウス、会員と同伴ゲストしか立ち入ることはできず、平日のみ利用できる会員紹介のゲストはプロショップで受付や精算を済ませる仕組みとなっている。そのプロショップや天然芝の上で打てる練習場、さらに原則18ホールスループレーという形式はアメリカンスタイルそのもの。会員の募集金額から高級ゴルフ場のイメージを抱く人もいるかもしれないが、実際にはとてもカジュアルで機能的。限られたメンバーとその家族やゲストが、プレーや交流を楽しむことに特化した施設といえる。『真のクラブライフ』を求めるゴルファーは、入会を検討してみてはいかがだろうか。



(右) コース内にはアメリカンな雰囲気を演出するアイテムが多数。クラブハウス前の案内看板のその一つだ。(左) 各カートに「CLUBER BASE」の『TURF AID BAG』を常備。新しいゴルフ文化の創造にも意欲的だ。

number_3 Restaurant & Terrace

窓を全面開放すれば テラスと一体化

テラス席で風に吹かれながら食事を取るのもまた一興。ハーフターン時は、ここでスパムなど軽食やドリンクを購入して、後半のラウンドへ向かう。



number_2 Pro Shop

オリジナルアイテムも充実

プロショップは別棟になっている。会員同伴でないゲストはクラブハウスに入れないため、ここで受付や精算も済ませる。ポロシャツやヘッドカバーなどロゴ入りアイテムも多数。



number_1 Driving Range



天然芝から打てる 300ヤードレンジ

天然芝の上からコースボールを打てる300ヤード級のドライビングレンジとアプローチ＆バンカー練習場を備える。打ち放題なので、ラウンドの前後に思う存分練習できる。



number_4 Course

帝王・ニクラス作のチャンピオンコース

直線と曲線が美しく融合した空間が広がり、緻密に計算されたバンカーや池が待ち受ける。チャレンジングな18ホールはレベルに応じて楽しめる。

